
いつもより少し風の音を聞く。

摩璃藻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつもより少し風の音を聞く。

【Nコード】

N6071D

【作者名】

摩璃藻

【あらすじ】

文学にチャレンジ。これ詩にも見えます。どっちなのでしょうか

いつものよう 友達とふざけあっている自転車置き場
ちらりと見えた とても言葉では言い表せない素敵なき色をした夕日

いつものよう 自転車で走る帰り道

友達が友達を呼ぶ

私はそれを聞こえないフリ

自転車のギアを最高にする

ペダルの上で立ち上がる

体重をかけて踏みしめる

一拍遅れて風が駆ける

凍てつくような風

刺すような冷たさ

その表現は小説で使えそうだと考える私

何度も幾度もペダルを踏む

その内に踏まなくなる

ギアを最初より下げる

するとほら ゆっくりとすぎてゆく夕暮れの景色と

いつものよう 少し違う

鳥の声も聞こえない

友達の声も聞こえない

ただただ 風だけが揺う

人の話し声

前から 後ろからも

私は顔を顰めて

前の人の後姿

友達と似ているけれど違う

途中で人は曲がった

私はほつと息をつき またギアを上げる

ペダルを思い切り踏む

風が駆けてゆく

私は語り掛きたい 何をそんなに急ぐのと

そこで思う

これ文学小説にしよう 短編で

髪が流れてく

少しのカーブ
スピードは落とさない
顔にはりつく前髪が少し鬱陶しい
後はまた

風の掛ける音
風の揺い声
風を感じる
聞く
それだけ

家が見えてくる
スピードを落として曲がる
犬が吼える

私は思う

宿題 したくねえ

(後書き)

いつもより少し違ったので、文章に綴ってみました。
どうぞしゅじゅ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6071d/>

いつもより少し風の音を聞く。

2010年11月20日03時42分発行